

論文概要

インフォーマルセクターの存在意義の検討 -社会経済変動の影響を踏まえたルアンダの行商人・露店商人の生計事例研究-

研究の目的

本研究の目的は、社会経済変動下における、インフォーマルセクターに従事する人々の生計実態と検討される役割の議論から、インフォーマルセクターとしての就業選択要因および存続要因を明らかにし、地域社会経済にとっての存在意義を検討することにある。そのために、インフォーマルセクターにかかる先行研究、アンゴラにおけるインフォーマルセクター成立の背景や特性、アンゴラ政府による対インフォーマルセクター政策の変遷を確認した。それらを踏まえて、インフォーマルセクターに従事する人々を対象に聞き取り調査および参与観察を行い、その生計実態の究明と社会経済の変動が生じる逆境のなかで、インフォーマルセクターがに従事する人々がいかなる影響を被り、また、社会・経済に対していかなる影響を与えているのかを明らかにし、役割の検討を行った。なお、本研究では、インフォーマルセクターを対象とするが、定義自体の再検討が目的ではなく、アンゴラの行商人および露天商人の現状を解明するうえで効果的なキーワードとしてこれを採用している。

研究の方法

本研究では、大きく分けて二つの方法を用いて調査を行った。前者は、先行研究の検討、後者は、フィールドにおけるインタビュー調査である。

前者の先行研究の検討として、まず、インフォーマルセクターに従事する人々の生計実態、就業選択・存続要因を明らかにし、地域社会経済における存在意義を検討するため、対象となるインフォーマルセクターに係る先行研究の検討を実施した。先行研究を通じて、インフォーマルセクターに関する議論、成り立ち、特性を明らかにすることはルアンダのインフォーマルセクターを正確に捉える上で重要な示唆を与えると考えるためだ。これらの先行研究より学びを得たところで、対象をアンゴラまたはルアンダに絞って、インフォーマルセクターの特性、人口動向などの生み出された社会的背景を明らかにした。

さらに、本研究では、当地の研究者の助言をいただきながら、政府機関や研究機関が発表する資料と併せて情報収集を行った。加えて、その他国際機関がまとめる統計を活用し、多面的に検証を行った。これらは、アンゴラにおける社会経済構造を明らかにし、社会・経済的な環境の変化を描写することを目的としている。

後者のフィールドにおけるインタビュー調査に関しては、対面方式での聞き取りと参与観察を用いた。同調査は筆者がアンゴラにて生活する1年8か月の間に実施した。物価の変動などの社会経済変動が生じる前後の生活状況を比較し、社会経済変動の影響を把握すること、また、インタビュー項目に限らず、ルアンダの商業状況がいかに機能しているか、インフォーマルセクターに対する評価、政府による取り組みの評価などの項目についても、インフォーマルセクターだけでなく、フォーマルセクターおよび顧客に範囲を拡大し、会話を通じて全容の把握に努めた。

論文の構成

第一章 序論

- 第一節 研究の背景と問題の所在
- 第二節 研究の目的
- 第三節 研究の方法
- 第四節 論文の構成

第二章 インフォーマルセクターに関する先行研究の検討

- 第一節 インフォーマルセクターの概念に関する議論
 - 第一項 「ケニア雇用戦略調査団報告」とインフォーマルセクターへの関心の高まり
 - 第二項 インフォーマルセクターの定義づけの試み
 - 第三項 インフォーマルセクターに関わる3つのアプローチ
- 第二節 アフリカにおけるインフォーマルセクターの発展の背景
 - 第一項 植民地支配とインフォーマルセクター発展の因果関係
 - 第二項 構造調整政策（SAPs）の導入とその影響
 - 第三項 アフリカのインフォーマルセクターの規模
- 第三節 インフォーマルセクターの役割と評価

第三章 ルアンダにおけるインフォーマルセクターの形成

- 第一節 アンゴラにおけるインフォーマルセクターの定義に係る便宜的整理
- 第二節 アンゴラの経済発展と都市化の動向
 - 第一項 内戦終結から現在までの経済発展
 - 第二項 アンゴラの政治体制
 - 第三項 資源に依存した偏った経済構造と都市部への人口流入
- 第三節 ルアンダ概要
 - 第一項 ルアンダ市の成り立ち
 - 第二項 ルアンダへの国内避難民の流入
- 第四節 ルアンダにおけるインフォーマルセクターが生み出される社会的背景
 - 第一項 ルアンダにおけるインフォーマルセクターの特性
 - 第二項 インフォーマルセクターの人口推移
 - 第三項 インフォーマルセクターの増大
- 第五節 アンゴラ政府によるインフォーマルセクターに関わる諸政策

- 第一項 モノポリズムからの政策転換
- 第二項 商業法の制定
- 第三項 物流システム再構築プログラムの推進

第四章 社会経済変動によるインフォーマルセクター生計への影響

- 第一節 石油価格の下落
- 第二節 為替レート変動の動向
- 第三節 生活環境の変化を促す要因の形成

第五章 インフォーマルセクターに対するインタビュー調査の考察

- 第一節 インタビュー調査方法
- 第二節 調査結果から見る生計実態の考察
 - 第一項 調査対象の基礎情報
 - 第二項 インフォーマルセクターの活動内容
 - 第三項 調査データ分析
 - 第四項 公設市場の外で活動する背景
 - 第五項 インフォーマルセクターが抱えるリスク
- 第三節 インフォーマルセクターが被る影響および与える影響
 - 第一項 インフォーマルセクターが被る影響
 - 第二項 インフォーマルセクターが与える影響

第六章 総合考察

- 第一節 インフォーマルセクターの就業選択理由および存続要因
- 第二節 インフォーマルセクターが地域社会経済において果たす役割の検討

第七章 結論と今後の課題

- 第一節 結論
- 第二節 今後の展望と課題

謝辞

参考文献一覧

論文の概要

第一章「序論」では、研究の背景と問題の所在、目的及び研究方法について記載している。

第二章「インフォーマルセクターに関する先行研究の検討」では、インフォーマルセクターの概念に関する議論、定義づけの試みを俯瞰し、ルアンダのインフォーマルセクターの考察に繋がる参照情報を記載している。

第三章「ルアンダにおけるインフォーマルセクターの形成」では、まずアンゴラにおけるインフォーマルセクターの定義に係る便宜的な整理を行っている。本研究においては、アンゴラにおけるインフォーマルセクターに関する実務上の先行研究における議論に基づき、「国家が定める規制や枠組みから外れ、路上や広場などで、“違法”に行商や露天商を営む商人」を便宜的にインフォーマルセクターと呼称する。ここでいう“違法”かどうかの判断は、2007年に制定された、商業活動に係る法律である、商業法“Lei n.º 1/07”に基づく。また、フォーマルセクターを政府や民間による輸入業者、生産者、卸売業者、仲介業者、スーパーマーケット等の大規模な商業施設または販売店、中小規模の商店とし、インフォーマルセクターを全体からフォーマルセクター、農業従事者、失業者を差し引いた数字で示すことが多い。加えて、本章では、インフォーマルセクターが増大する背景を述べている。ルアンダ特有の背景として、石油に依存した経済構造が依然として根強く存在すること、都市近代工業または農業などの非石油部門が未成熟であり、急激な都市化による都市部人口の急増に対応する雇用を創出できていないこと、内戦によるIDPの拡大を主に挙げている。加えて、フォーマルセクター市場とインフォーマルセクター市場の供給性の関係性、構造調整政策と新古典派アプローチによる経済政策の転換により、インフォーマルセクターが拡大していることも背景として挙げている。

第四章「社会経済変動によるインフォーマルセクター生計への影響」では、アンゴラにおいて、近年、国際的な石油価格の下落を起因とする財政収入の減少、輸出の減少、債務のふくらみ、外貨準備高の減少、大幅な為替変動などの社会経済変動により、急激な物価上昇が生じている点を明らかにしている。

第五章「インフォーマルセクターに対するインタビュー調査の考察」では、対面方式での聞き取りと参与観察の結果をまとめている。調査を通じて、インフォーマルセクターは、社会経済変動が生じる中で、急激な物価上昇により生計が逼迫しており、大きな影響を被っていることが分かっている。また、インフォーマルセクターはフォーマルセクターと密接に関わり合うことから、輸入制限、現地通貨安を背景に、卸売業者などが扱う商品の価格が高騰した結果、多数のインフォーマルセクターに従事する人々が営む商業活動が停滞することが避けられない状況にある。他方で、社会経済変動下で、大工や自動車修理工のような特定の職種に従事するインフォーマルセクターに対して顧客が流入していること、サービス業を営むインフォーマルセクターは相対的に社会経済変動の影響を受けにくいことを明らかにしている。

第六章「総合考察」では、先行研究の検討と調査結果をふまえ、インフォーマルセクターの役割の検討を行い、社会経済変動下における生計実態と役割の議論から、筆者の問いである、インフォーマルセクターとしての就業選択要因および存続要因を明らかにし、その存在意義を検討している。アンゴラでは、上述した、アンゴラ特有の点を背景にインフォーマル

セクターが増大し、フォーマルセクター雇用の受け皿が不足することから、人々は生きる術をインフォーマルセクターに求めて就業選択している。インフォーマルセクターは社会経済変動下においても、(1) 高い技術力、(2) 経済性、(3) 利便性、(4) 供給性、(5) 代替性それぞれの観点において、フォーマルセクターではカバーできない役割を担っている。これらのことから、インフォーマルセクターは経済主体として役割が確立されており、決して社会から切り離される存在ではない。その一方で、上述したように、インフォーマルセクターはフォーマルセクターと密接に関わり合う事から、輸入制限、現地通貨安を背景に、卸売業者などが扱う商品の価格が高騰した結果、多数のインフォーマルセクターが営む商業活動が停滞することは避けられない。また、物価の上昇による生計の逼迫は社会経済変動の悪影響として避けられないことも事実としてある。このことから、未だインフォーマルセクターは、置かれる環境の変動に対して、経済的に脆弱な存在である。さらに、生計活動において、警察や検閲官による暴力的な取り締まり、性犯罪、窃盗などの軽犯罪や交通事故等の様々なリスクに侵されていることも分っており、社会的にも脆弱な存在である。

第七章では、本論の結論と今後の課題を述べている。先行研究を踏まえた事例研究を通じて、アンゴラにおいて、インフォーマルセクターの存在は、フォーマルセクターではカバーできない役割を担い、地域社会経済における存在意義を確立している点で重要であることが導かれた。アンゴラにおいて、明らかとなった役割から、インフォーマルセクターの存在は、今後より一層重要になってくる。アンゴラ政府は、フォーマルセクター雇用の創出を追い求める一方で、インフォーマルセクターを撲滅するのではなく、彼らの役割を認知し、インフォーマルセクターの存在意義を際立たせるべく、脆弱な環境からの脱却に向けたアプローチを施す必要がある。

なお、本研究では、生計実態の解明という点では、個々人の営む生計実態の、特に投資や支出の詳細を明確化することができず、十分に解明したとは言い難い。従って、インフォーマルセクターのより詳細な生計実態の解明は、今後の課題とする。さらに、本研究では、2015年に生じた社会経済変動にのみ焦点を絞って調査を行っているため、それ以前を含めた長期的なマクロ経済の変化と、インフォーマルセクターの経済状況の連関を明らかとすることができていない。従って、インフォーマルセクターのより詳細な生計実態および長期的なマクロ経済の変化とインフォーマルセクターの経済状況の連関の解明もまた、今後の課題としている。

以上